

心の闇をなくすAI会話アプリの研究

カウンセリングを意図したAI会話アプリの開発

神田奈央

追手門学院大手前高等学校

〈研究背景と提案〉

人間だれしも悩みを抱える。けれども、話を聞いてくれるカウンセラーの数はかなり少なく、日本人口の**3300分の1**しかいない。

それゆえに利用料が高く、長時間話を聞いてもらうことができないため、たくさんの人が利用することに抵抗を持っていると思う。



私は、悩みを打ち明けることができずに抱え込んでしまう人を減らすことができる会話アプリ「**心も（はーとも）**」の開発に挑んだ。

〈私が開発しているアプリについて〉

iOS/Androidアプリ
環境：Unity 言語：C#

～“はーとも”の特徴～

- ①：ユーザーが発した言葉の中から**テキストマイニング**で特定の単語のみを抽出・認識する。
- ②：①に対して、**カウンセリング**要素を含んだ最適の返答をする。
- ③：話し相手となるアバターはユーザーが自分で選択することができるため、**安心感**を得やすい。
- ④：家族や友人などには話しぶりいことでも打ち明けやすい。
- ⑤：**無料**で利用できるため、カウンセリングを受けに行くのを躊躇っている人も気軽に利用できる。

これらの特徴を持つ“はーとも”は、個々の気持ちに寄り添い、悩みを抱える人々の心を癒す。

〈結果と今後の展望〉

「はーとも」の開発によって、

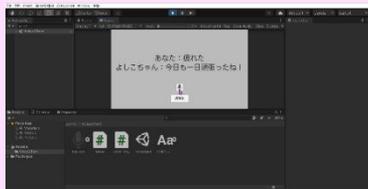
- ①会話ができないことによる**ストレスを軽減**し、未然に**うつ病を防ぐ**ことができる。
- ②うつ病が原因で**自殺する人を減らす**ことができる。
- ③カウンセリングや心療内科への**受診に躊躇う人を減らす**ことができる。
- ④多くの人々の**心の健康の促進**に貢献できる。

上記の結果が得られると考えている。よって、「はーとも」の開発は世界中の人々を精神的なダメージから救うためになくてはならない存在になるのではないだろうか。

今後、より人間のカウンセラーに近いレベルでカウンセリングができるように、ユーザーが呼びかけている時の声のトーンや口調を聞き分け、正確にユーザーの心情を読み取れるようにしていきたい。



～はーともの開発画面と動いている様子 (URL)～



<https://d.kuku.lu/4cb936f4b>

〈“はーとも”と創造する社会〉

現在、悩みやストレスを抱え込んでしまうことで最終的に自殺に追い込まれてしまう人は年間6～7千人いると言われている。

しかし、このアプリを使えば精神的なストレスによるうつ病などを未然に防いだり、人の心の闇を無くしたりでき、人の心の闇が原因で起こる“差別”などの問題も無くすることができる。

〈参考文献〉

- 厚生労働省「自殺・うつ病等対策プロジェクトチームとりまとめについて」
<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/2010/07/03.html>
- 厚生労働省「自殺の状況をめぐる分析」
<https://www.mhlw.go.jp/content/h28h-2-02.pdf>
- 日本臨床心理士認定協会「臨床心理士資格取得者の推移」
<http://fjcbcp.or.jp/shitokusha/>
- 加地雄一「機械は人間にカウンセリングできるか？—擬人観と人工知能—」